

# 未来の心臓病治療戦略

講師：野出 孝一 教授（佐賀大学医学部循環器内科学）

Lecturer: Prof. Koichi Node (Department of Cardiovascular Medicine, Saga University)

日時：平成25年5月8日（水） **18:00~**

Date: May 8<sup>th</sup> (WED), 2013 from **18:00**.

場所：医学教育図書棟3階 第2講義室

時間が変更になりました。

Time has been changed.

Place: Lecture Room 2, Medical Education & Library BLDG 3F.

哺乳類動物においては、睡眠・覚醒、呼吸・循環、消化、体温調節、ホルモン分泌など、生理機能の多くに24時間周期の体内リズムが存在する。この概日リズム（サーカディアンリズム）は、地球上の生物が、昼夜の日照時間や気温などの環境サイクルと同調し、安定した生命活動を維持するための適応機構と考えられている。一方、これまでの疫学研究により心筋梗塞、脳卒中、心臓突然死といった心血管イベントの発症には日内変動がみられることが従来から知られていた。たとえば、心筋梗塞や心房細動は早朝に発症しやすく、心拍数、血圧などの心血管反応も日内変動を伴っていることが明らかになっている。さらに、近年では高血圧やメタボリック症候群、さらには血管の老化にも体内リズムとの関連が指摘され、大いに注目を集めている。

生物として地球上で暮らすわれわれにとって、体内リズムと疫病の関係は切っても切り離せない関係にあり、体内リズムを知ることで病気の予防が可能となる可能性がある。ここでは、心血管病の発症と体内時計の関係について、現在の知見と今後の展望について述べたい。



担当：免疫学分野 阪口薫雄 教授

E-MAIL: [nobusaka@kumamoto-u.ac.jp](mailto:nobusaka@kumamoto-u.ac.jp)

医学事務チーム教務担当： [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)